

第6学年国語科学習展開案

令和2年7月3日（金）第5校時

杉並区立高井戸第二小学校 6年1組28名

授業者 主任教諭 中村 祐子

1 単元名 筆者の主張や意図をとらえ、自分の考えを伝え合おう（全8時間）

学習材 「笑うから楽しい」「時計の時間と心の時間」（光村図書 6年）

2 単元の目標

◎原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。

◎事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に抑え、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。

（言語活動）主張を述べた文章を読み、自分の考えをまとめて発表する。

3 単元の評価規準・単元に即した具体的評価規準

観点	ア 知識及び技能	イ 思考・判断・表現 【C 読むこと】	学びに向かう力 【主体的に取り組む態度】
単元の評価規準	○原因と結果など情報と情報との関係について理解している。 《(2) ア》	○「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に抑え、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(C (1) ア) ○「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりしている。(C (1) ウ) ○「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C (1) オ)	○進んで主張と事例の関係を捉えて読み、学習課題に沿って自分の考えをまとめて発表しようとしている。
学習活動に即した具体的評価規準	《第一次》 ○主張と事例の関係について理解している。	○筆者の主張と事例を読み取り、「笑うこと」と「楽しさを感じること」に関して、自分の経験を重ねながら考えをもっている。	○単元全体の見通しをもち、「笑うから楽しい」を進んで読もうとしている。

学習活動に即した具体的な評価規準	〈第二次〉 ○主張と事例など情報と情報との関係について理解している。	○目的に応じて、文章と図表とを結び付けて読み、筆者の論の進め方について考えている。 ○筆者の主張とそれを支える事例の関係を捉え、「時計の時間」と「心の時間」という二つの時間について自分の経験と重ねながら考えをまとめている。	○進んで主張と事例の関係を捉えて読み、学習課題に沿って自分の考えをまとめて発表しようとしている。
	〈第三次〉 ○主張と事例など情報と情報との関係について理解している。	○これまでの学習を生かし、文章の内容や書かれ方などに触れながら感想を交流している。	○進んで主張と事例の関係について理解を深め、学習課題に沿って自分の考えを伝えようとしている。

4 学びの構造転換に向けた単元の構成

(1) 学習材について

見開きで文章全体が見える練習教材「笑うから楽しい」と、やや文章が長い本教材「時計の時間と心の時間」の2教材で構成された説明的な文章の単元である。情報と情報との関係を扱う小教材「主張と事例」が置かれ、単元を通じて主張と事例の関係を捉える力を活用しながら定着を目指す。

「笑うから楽しい」は、感情の主観的経験、つまり自分の感情を自覚できる仕組みを説明しようとした心理学の理論を紹介したもの。体が自覚している自分自身の経験、即ち意識と切り離すことのできない関係にあることを示し、思春期にさしかかり、多くの問題や疑問を感じながら生活している6年生を応援し、前向きに生きるための知識や態度を教えている。

「時計の時間と心の時間」は、「二つの時間」について説き、「時間との上手な付き合い方」を考えさせる文章である。6年生の中には、毎日に慌ただしさを感じたり、その中で不安や不満を感じたりする児童も多い。本教材は、そのような児童の不安を和らげると同時に、客観性も身につけさせる。また、一つ目の教材同様、日々を前向きに生活する態度を養うことのできる教材となっている。

指導事項に関わって

主張とそれを支える事例の関係に着目しながら、それぞれどの段階に書かれているかを確認しながら読み進める。主張が「初め」と「終わり」にあり、「中」に主張を支える事例が示されているという2教材に共通した構造について理解させ、筆者の意図に迫らせたい。

「笑うから楽しい」

初め	中	終わり
① 主張	② 主張を証明する実験 ③ 主張を証明する別の事象	④ 主張の繰り返しと呼びかけ

「時計の時間と心の時間」

初め	中	終わり
① 話題提示 全体の主張	② 用語の定義「心の時間の特性」 ③ ～⑥「心の時間の特性」の事例 ⑦ 主張を支える理由 (ここまでのまとめ)	⑧ 主張の言い換え

言語活動に関わって

教材分の内容と自分の経験・知識を関係付けて、筆者の考えに対する考えを発表させ、互いに聞き合う。教材文に対する考えには、理解した点、共通した点ばかりでなく、納得できなかった点や、さらに疑問に感じた点なども含めてよいことを確認し合う必要がある。

教材・題材に関わって

「笑うから楽しい」は、人は楽しいときに笑うという通年を覆す内容であり、「時計の時間と心の時間」は、時計が表す時間と体感する時間の違いや両者の関連が述べられている。体と心の関係、客観と主観、時間など、目に見えないものについて、改めて考える契機になる。

(2) 学習者について

5年生の時から、児童が学習計画を立てたり、個別の学習課題を設定したりしている。学習計画については、学級全体で検討をしながら計画を立てる経験から、少しずつ学習の組み立て方を理解してきた。個別の学習計画を立てることは未経験のため、個別に支援をしながら進める必要が考えられる。学習課題については、感想文から自分の深めたいことを課題にして取り組むことに慣れてきた。課題解決のために、じっくり一人で読んで考えたり、友達や教師と話し合ったりする活動の良さを感じる児童は多い。児童自ら必要感を感じて、協働することができる児童もいれば、個別の課題設定ができない児童もいて、きめ細やかな指導が必要である。

(3) 研究主題に迫る手立て

①課題設定の工夫

初発の感想文をもとにして課題を設定するため、書く時間をしっかりと、十分に考えて書くことができるようにする。たくさん書くことで、課題となる内容を多様にもつことができると考える。また、一人では考えつかない児童のために、感想文の概要や課題を学級全体で共有して、考えるヒントになるようにする。場合によっては、友達の課題を自分の課題として設定することもよいこととする。

②学び方メニューの作成と掲示

課題解決のための探究する意欲を持続させ、児童自ら選んで学びを進めることができるように、学び方の振り返りを行う。今までの学習の様子を想起して、どんな時にはどんな方法で学習を進めてきたのか、今の学習ではどんなことが必要か、学級全体で確認をして掲示する。学習計画を立てる際や、進める中で変更したいとき等に活用し、児童自らの学び方の自己選択・自己決定を促す。

③学びの構造転換の授業の中で指導事項をおさえる工夫

個別の課題を設定して課題解決を行う授業をするため、おさえるべき指導事項を網羅するための工夫が必要である。本単元では、説明文の指導として「構造と内容の把握」(文章構成の理解)、「精査・解釈」(論の進め方)については、ポイントレッスンとして自己探究の前半か後半に指導する時間を設定した。

ポイントレッスンを実施する上では、自己探究の時間の確保と、意欲を継続させて指導事項を学習するための工夫を考えた。児童の学習の進捗状況を把握して、内容に合わせて、課題解決の経過を指導に生かす。そのために、課題設定後にじっくり探究する時間を設け、児童自らがよく読んでからポイントレッスンに臨めるようにした。また、ワークシートを作成し、全員が書き込むことで理解を全体に広げられる支援をした。

④ シグナルカード(協働のための色カード)

児童一人一人が、個別・協働を選びながら進めるためのカードである。4色のカードを机上に置き、話し合いたい相手がどういう状態なのか、視覚的に分かるようにする。4色カードの意味は次の通り。

赤「一人でやりたい」黄「見てもいいよ(参考にどうぞ)」緑「困っています」青「一緒にやりましょう」

⑤環境を整える

学びの構造転換の考え方で学習を進めるには、安心して意見を伝え合うことができる学級経営が不可欠である。学級開きで、担任から学級づくりを児童が主役となって行うことを伝え、様々な活動を積み重ねてきている。「与える」のではなく、児童が「選ぶ」「作る」ことができる機会をたくさん設定して学級づくりを進めた。

さらに、物理的な環境づくりとして、教室を児童が関わり合える場として考えたり、話し合うためのホワイトボードや短冊、学級全体に伝えるための画用紙等、多様なツールを常備したりした。特に、ホワイトボードは、昨年度から様々な学習で活用して手軽に使えるようにしている。

5 学習指導計画（全8時間 本時6時間目）

次	時間	学習過程	主な学習活動	教師の関わり ◆評価規準【評価方法】
第一次 出 会 い	1	1 心と体，心と時間の関わりについての知識や経験を交流する。	○初発の感想を書く。 ○伝えたい友達と交流したり，全体に発表したりする。	<ul style="list-style-type: none"> ・本文への関心や期待感が増すよう，題名に対する違和感を取り上げる。 ・感想の内容は多様性を大事にする。本文のどこに着目したのかを明確にするために，サイドラインを引くなどして，根拠を明確にする。
	2	2 読みの土台を作る。 「笑うから楽しい」の文章全体の構成について確かめる。	○「笑うから楽しい」を読み，事例や主張がどの段落にあるかを確かめる。	<ul style="list-style-type: none"> ◆主【ノート】 単元全体の見通しをもち，「笑うから楽しい」を進んで読もうとしている。 ・前時の感想と学習課題が途切れないように，配慮する。 ・本文の内容について課題を立てるよう伝える。 ◆知【発表・ノート】 主張と事例の関係について理解している。 ◆思・判・表【発表・ノート】 筆者の主張と事例を読み取り，「笑うこと」と「楽しさを感じること」に関して，自分の経験を重ねながら考えをもっている。
第二次 課 題 設 定 探 究 協 働	3	3 学習課題を自己決定する。（個別に選ぶ。） 4 単元の目当てを確認し，学習計画を立てる。	○もう一度じっくりと本文を読み，学習感想をもとに，自分の考えたいことを明確にしていく。 （短冊に課題を書く。） ○考えた課題を見合い，感想を伝え合うことで，探究していきたい内容を決める。	<ul style="list-style-type: none"> ・決定した課題は，常時見ることができるように教室内に掲示する。 ・学習計画，学び方の振り返りも掲示する。
	4 5 6 7	5 自分の考えを創る 探究に浸る 協働して学ぶ	○必要に応じて友達と交流しながら探究する。 （どのようなスタイルで学習するかは児童が選択する。停滞してきた時は，意図的に与える協働も考える。）	<ul style="list-style-type: none"> ・教師は学びの協同探究者として関わる。 ・学習者の学びの可能性を広げるために，学習者だけでは解決されない内容や，見方・考え方を提示し，学習を深める。 ◆知【発表・ノート】 主張と事例など情報と情報との関係について理解している。

		<p>6 ポイントレッスンで、指導事項について学習する。</p>	<p>ポイントレッスン① ・文章構成</p> <p>ポイントレッスン②【本時】 ・論のすすめ方（事例の順番について）</p> <p>ポイントレッスン③ ・内容の把握 ・考えの形成（まとめ方）</p>	<p>◆思・判・表【発表・ノート】 目的に応じて、文章と図表とを結び付けて読み、筆者の論の進め方について考えている。</p> <p>◆思・判・表【発表・ノート】 筆者の主張とそれを支える事例の関係を捉え、「時計の時間」と「心の時間」という二つの時間について自分の経験と重ねながら考えをまとめている。</p> <p>◆主【観察・発表】 進んで主張と事例の関係を捉えて読み、学習課題に沿って自分の考えをまとめて発表しようとしている。</p>
<p>第三次 協働</p>	<p>8</p>	<p>7 筆者の主張や意図をとらえ、自分の考えを伝え合う。</p>		<p>◆思・判・表【観察・発表】 これまでの学習をいかし、文章の内容や書かれ方などにふれながら感想を交流している。</p> <p>◆主【発表・ノート】 進んで主張と事例の関係について理解を深め、学習課題に沿って自分の考えを伝えようとしている。</p> <p>◆知【発表・ノート】 主張と事例など情報と情報との関係について理解している。</p>

6 本時の指導 (6/8時)

(1) 本時のねらい 及び、第4～7時のねらい

筆者の主張と事例の関係と論の進め方について考える。

(じっくりと本文を読んだり、友達と話し合ったりして、自分の課題について探究する。)

(2) 展開

学習内容	主な学習活動	☆支援 ◆評価規準【評価方法】
<p>1 本時の学習活動を確認する。</p> <p>2 ポイントレッシンを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>〈ポイントレッシンの内容〉 (精査・解釈) 筆者が複数の事例を挙げながら「心の時間」の特性について説明した理由を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章の書き方や事例の順番, 「心の時間」に注目して課題を立てた児童を紹介して, その学びを全体に広げようにする。 ・事例の順番の意図について話し合わせる。(ホワイトボード使用) ・話し合いの後, 考えを共有して, 筆者の主張との関係について理解する。 </div> <div style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 自分の課題の解決のために, 考えたり話し合ったりしよう </div> <p>3 自分の課題について考える。 (探究に浸る)</p>	<p>○自分の課題の解決に向けて, 自分で読み深めたり, 友達と話し合ったりする。</p>	<p>☆学習計画を掲示しておく。 ☆学習課題の一覧表を掲示しておく。</p> <p>◆思・判・表現【発表・ワークシート】</p> <p>☆前時までの学習の進捗状況から, 本時のポイントレッシンに関わる児童の学習の様子を紹介できるようにする。 ☆短時間の指導で理解できるように, ワークシートを用いる。</p> <p>☆前時の学習感想や課題解決の進捗状況から支援が必要な児童を抽出しておく。(最初は求められるまで行かない。)</p>
<p>【学び方メニュー】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> 一人で </div> <ul style="list-style-type: none"> ・何度も本文を読む。 ・ノートに分かりやすく書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> 友達と </div> <ul style="list-style-type: none"> ・協力して考える。 ・考えを交流する。 ・全体で話し合う。 		<p>☆考える際は, 一人・友達・教師の選択肢を自由に選び, 探究に浸れるようにする。 ☆友達と話したことで, 課題を変更することも選択肢とする。</p>
<p>4 学び方と本時の読みの振り返りをする。</p>	<p>○探究場面での自分の課題や心に残った友達との交流について振り返る。</p>	<p>◆思・判・表現【ノート】</p>